

岩手運輸支局外壁改修工事

図 面 リ ス ト		
図 面 番 号	図 面 内 容	縮 尺
0 1	改修特記仕様書（１）	N O N
0 2	改修特記仕様書（２）	N O N
0 3	改修特記仕様書（３）	N O N
0 4	改修特記仕様書（４）	N O N
0 5	配置図・案内図	1：300
0 6	平面図（参考図）	1：100
0 7	改修前・後 北立面図	1：100
0 8	改修前・後 南立面図	1：100
0 9	改修前・後 東立面図	1：100
1 0	改修前・後 西立面図	1：100
1 1	断面図（参考図）	1：100
1 2	矩形図（参考図）	1：30
1 3	外部建具表、LPG置場各図、詳細図（参考）	図示
1 4	仮設計画図（参考図）	1：150



3
防水改修工事

5. 改質アスファルトシート防水

6. 合成高分子系ルーフィングシート防水

屋根防水

防水層の種類
改修工法
保護層
E-1の工程3を行う部位
※貯水槽、浴室等常時水に接する部位
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

屋上排水溝
※図示による

屋根露出防水（既存）
新設防水層の種類
改修工法
新設種別
施工箇所
仕上塗料
断熱材
備考

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定（個）

絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する
・設置しない

新設防水層の種類
改修工法
新設種別
施工箇所
仕上塗料
断熱材
備考

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
※非歩行仕様
・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム
・設置する
・設置しない

7. 塗膜防水

⑧. シーリング

9. とい

屋内防水

防水層の種類
種別
平場の保護モルタル塗厚
立上り部の保護モルタル塗厚
※7mm以下

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類
目地割
※目地割2m程度、最大目地間隔3m程度
目地の種類
※押し目地
合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類
厚さ mm以上
絶縁用シートの材質
※発泡ポリエチレンシート
固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※ルーフィングシートの製造所の仕様
設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様（ ）個
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う（※図示による）
プレキャストコンクリート部材の隅部増張り（種類S-F1、SI-F1の場合）
・行う（※図示による）
・行わない

新設防水層の種類
改修工法
新設種別
施工箇所
仕上塗料
使用量
備考

・POX
※X-1
・X-2
・X-1H
・X-2H

・L4X
・X-1
※X-2
・X-1H
・X-2H

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※主材料の製造所の仕様
設置数量 ※主材料の製造所の仕様（個）

新設防水層の種類
改修工法
新設種別
施工箇所
工程数及び各工程の使用量
保護層

・PIY
※Y-2

・P2Y
※Y-2

シーリング改修工法の種類
・シーリング充填工法
①シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
・ボンドブレイカー張り
・適用する
・適用しない
・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

仕上げを行わない施工箇所
・図示による
シーリング材の目地寸法
※改修標準仕様書3.7.3(1)による
・図示による
接着性試験
※簡易接着性試験
・引張接着性試験

といその他の材種
・配管用鋼管
・硬質ポリ塩化ビニル管
・表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類）
・ルーフトレン（ ）

とい受金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
・
形状
※市販品（とい径100以下）
※25×4.5以上（とい径100を超えるもの）
取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による
・
足金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
・
形状
※市販品

10. アルミニウム製笠木

11. 防水保証

4-1
外壁改修工事
コンクリート打放し仕上げ外壁

4-2
外壁改修工事
モルタル塗り仕上げ外壁

取付け間隔
多雪地域
※改修標準仕様書3.8.2による
・
・適用する
・適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法
・図示による
鋼管製といの防露巻き
※改修標準仕様書表3.8.4による

ルーフトレンの種類及び呼び
種別
呼び
施工箇所

・ろく屋根用たて形Ⅰ型
※ねじ込み式
・ろく屋根用模形Ⅰ型
※ねじ込み式
・バルコニー中継用
※ねじ込み式
・差し込み式
・バルコニー用
※ねじ込み式
・差し込み式

たてどい受金物の取付け
※図示による
ルーフトレンの取付け
※水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する
・

種類
・オープン形式（・押出250形
・押出300形
・押出350形）
・板材折曲げ形（・オープン形式
・シール形式）
本体幅（ ）mm
板厚（※2.0mm
mm）

表面処理
種別（ ）種
色合等
・標準色（ ）
・特注色（ ）
既存笠木等の撤去
・行う（範囲
・図示による）
・行わない
下地補修の工法
※図示による
板材折曲げ形の笠木の取付方法
※図示による
・

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡しの日から10年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提供する。
塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

・樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入力（mL/m）
延べ長さ（m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
・手動式エポキシ樹脂注入工法
・機械式エポキシ樹脂注入工法
○無機質型注入材

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り箇所
※長さ500mmごと及びその端数につき1個
・
抜き取り部の補修方法
※図示による
・
・Uカットシール材充填工法

工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・可とう性エポキシ樹脂
・シーリング材

①シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系
・
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う
○行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂
○シール工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・パテ状エポキシ樹脂
・可とう性エポキシ樹脂

○充填工法
材料
平均深さ（mm）
平均広さ（㎡）
延べ箇所数
○ポリマーセメントモルタル
・エポキシ樹脂モルタル

1. ひび割れ部改修工法

2. 欠損部改修工法

3. 浮き部改修工法

・樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入力（mL/m）
延べ長さ（m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
・手動式エポキシ樹脂注入工法
・機械式エポキシ樹脂注入工法
○無機質型注入材

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り箇所
※長さ500mmごと及びその端数につき1個
・
抜き取り部の補修方法
※図示による
・
・Uカットシール材充填工法

工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・可とう性エポキシ樹脂
・シーリング材

①シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系
・
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う
○行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂
○シール工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・パテ状エポキシ樹脂
・可とう性エポキシ樹脂

○充填工法
材料
平均深さ（mm）
平均広さ（㎡）
延べ箇所数
○ポリマーセメントモルタル
・エポキシ樹脂モルタル

・樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入力（mL/m）
延べ長さ（m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
・手動式エポキシ樹脂注入工法
・機械式エポキシ樹脂注入工法
○無機質型注入材

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り箇所
※長さ500mmごと及びその端数につき1個
・
抜き取り部の補修方法
※図示による
・
・Uカットシール材充填工法

工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・可とう性エポキシ樹脂
・シーリング材

①シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系
・
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う
○行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂
○シール工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・パテ状エポキシ樹脂
・可とう性エポキシ樹脂

○充填工法
材料
平均深さ（mm）
平均広さ（㎡）
延べ箇所数
○ポリマーセメントモルタル
・エポキシ樹脂モルタル

・樹脂注入工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
注入口間隔（mm）
注入力（mL/m）
延べ長さ（m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
・手動式エポキシ樹脂注入工法
・機械式エポキシ樹脂注入工法
○無機質型注入材

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り箇所
※長さ500mmごと及びその端数につき1個
・
抜き取り部の補修方法
※図示による
・
・Uカットシール材充填工法

工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・可とう性エポキシ樹脂
・シーリング材

①シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系
・
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う
○行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂
○シール工法
工法の種類
ひび割れ幅（mm）
延べ長さ（m）
・パテ状エポキシ樹脂
・可とう性エポキシ樹脂

○充填工法
材料
平均深さ（mm）
平均広さ（㎡）
延べ箇所数
○ポリマーセメントモルタル
・エポキシ樹脂モルタル

・アンカーピンニング
部分エポキシ樹脂注入工法
・アンカーピンニング
全面エポキシ樹脂注入工法
・アンカーピンニング
全面ポリマーセメントスラリー注入工法
・注入口付アンカーピンニング
部分エポキシ樹脂注入工法
・注入口付アンカーピンニング
全面エポキシ樹脂注入工法
・注入口付アンカー
ピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
・充填工法
・モルタル塗替え工法

アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm程度
・
注入工法用材料
・ポリマーセメントスラリー
広がり速度
長さ変化量
（収縮）
（%）
引張接着性
（材齢28日）
（N/mm2）
曲げ性能
（材齢28日）
（N/mm2）
吸水性
（72時間）
（%）
耐久性
（劣化曲げ強さ）
（N/mm2）
3以上
3以下
0.5以上
5.0以上
15以下
5.0以上

保水係数 0.35～0.55
粘調係数 0.50～1.00

特記

資格/番号
氏名
印
代表設計者
一級建築士
石山 徳昭
第200364号

資格/番号
氏名
印
担当設計者
二級建築士/第10276号
武田 彩華

検図
製図
石山 武田
R08.07.24
R08.07.21

一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所
ISHIYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE
山形県事務所登録（1603）第1096号

工事名
岩手運輸支局外壁改修工事
図名
改修特記仕様書（2）
作図年月日
2026年 7月 日
編尺
A1版 NON
A3版 NON

図面番号
A-02

[illegible]

9環境配慮改修工事

①石綿含有建材の除去工事

施工調査
※石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によって石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無を調査する。
調査範囲（・）
貸与資料（・）
・石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数 (各施工箇所ごと)
・測定 1	処理作業前	処理作業前	処理作業室内	・計 点
・測定 2			調査対象室外部の付近	・計 点
・測定 3			処理作業室内	・計 点
・測定 4			セキュリティゾーン入口	・計 点
・測定 5	処理作業中	処理作業中	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速 1m/s以下の位置 ・計 点
・測定 6			処理作業室内 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計 点
・測定 7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・計 点	
・測定 8	処理作業後 (シート撤去後 1週間以降)	処理作業室内	・計 点	
・測定 9		調査対象室外部の付近	・計 点	

測定方法
・自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・測定 4 ・測定 5	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・JIS K 3850-Iに基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ 直径(mm)	試料の吸引流量 (L/min)	試料の吸引時間 (min)
・測定 4 ・測定 5	25	5	30
・測定 ・	47	10	120
・測定 ・	47	10	240
・測定 ・			

石綿含有建材の処理
・石綿含有吹付け材の除去

除去対象範囲
・図示による
除去工法
※改修標準仕様書9.1.3 (2) (7)による
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置
※湿潤化・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

・石綿含有保温材等(石綿含有けい酸カルシウム板第二種含む)の除去

除去対象範囲
・図示による
除去工法
・破碎して除去
・手ばらし
除去した石綿含有保温材等の飛散防止
※湿潤化・固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

・石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種)の除去

除去対象範囲
・図示による
隔離養生(負圧不要)方法
・図示による
足場
・図示による
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分
・埋立処分(安定型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

・石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種以外)の除去

除去対象範囲
・図示による
除去した石綿含有成形板の処分
・石綿含有せっこうボード
※埋立処分(管理型最終処分場)
・石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板
・埋立処分(安定型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

○石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去

除去対象範囲
○図示による
除去工法
養生方法
除去した石綿含有仕上塗材の処分
・埋立処分(安定型最終処分場)
・埋立処分(管理型最終処分場)
○中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)
石綿含有建材除去後の仕上げ工事
○図示による

2.断熱ﾌｾﾞﾙﾌｵｰﾑ
防水改修工事

改修特記仕様書3章による。

断熱材の種類
断熱材の厚さ(mm)

施工箇所
・図示による
ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

外装材

種類	防火性能	備考
鋼材 改修特記仕様書第8章 8-3 鉄骨工事 ・鋼材による 笠木 改修特記仕様書第3章 ・アルミニウム製笠木による		

既存外壁の処置
既存外壁仕上材の撤去
・行う
・行わない
下地面の清掃
・行う
・行わない
欠損部の改修工法
・改修特記仕様書第4章 外壁改修工事による
不陸等の下地調整

断熱材の施工
・断熱材製造所の仕様による
外装材の施工
・外装材製造所の仕様による
通気層の有無
・有 (mm) ・無
外装材の外壁への取付け
・図示による
笠木の施工
・改修特記仕様書第3章 アルミニウム製笠木による

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

工法
・断熱材打込み工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類
厚さ(mm)
施工場所
・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種1
・A種1H
吹付け厚さ (mm)
・25
・30
施工箇所
・図示による
・断熱材後張り工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類
厚さ(mm)
・断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル
材質
厚さ (mm)
・張り付け工法
断熱材の張り付け工法
断熱材へのボードの張付け工法

植栽基盤及び材料
・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の種類等
※図示による
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示による
かん水装置
・設置する(種類)
既存保護層の撤去
・行う
・行わない
新植した芝及び地被類の枯補償の期間
※引渡しの日から1年

3.外断熱改修工事

4.断熱・防露改修工事

5.屋上緑化改修工事

6.透水性ﾌｾﾞﾙﾌｵｰﾑ
舗装改修工事

適用範囲：歩道
既存舗装の撤去及び再利用
※図示による

路床

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種 ※B種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示による
・凍上抑制層	※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂	・図示による
・フィルター層	※砂	・図示による

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)
・行う ※行わない
・路床安定処理
・適用する
・適用しない
安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定処理用添加材料
種類
※普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰 (・特号
・1号)
・消石灰 (・特号
・1号)
添加量
・ kg/m3 (目標CBR
・3以上
・)
目標CBRを満足する添加量の確認方法
・安定処理土のCBR試験

1.一般事項

2.測定対象化学物質

3.測定方法

4.測定する室

5.測定結果等報告書の提出

6.その他

11総揮発性有機化合物TVOC測定

1.一般事項

2.測定対象化学物質

3.測定方法

4.測定する室

5.測定結果等報告書の提出

6.その他

特記

資格/番号氏名印

代表設計者
一級建築士
第200364号
石山 徳昭

資格/番号氏名印

担当設計者
二級建築士/第10276号
武田 彩華

検 図

石 山

製 図

武 田

一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所
ISHIYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE
山形県事務所登録(1603)第1096号

工 事 名

岩手運輸支局外壁改修工事

図 名

改修特記仕様書 (4)

作図年月日

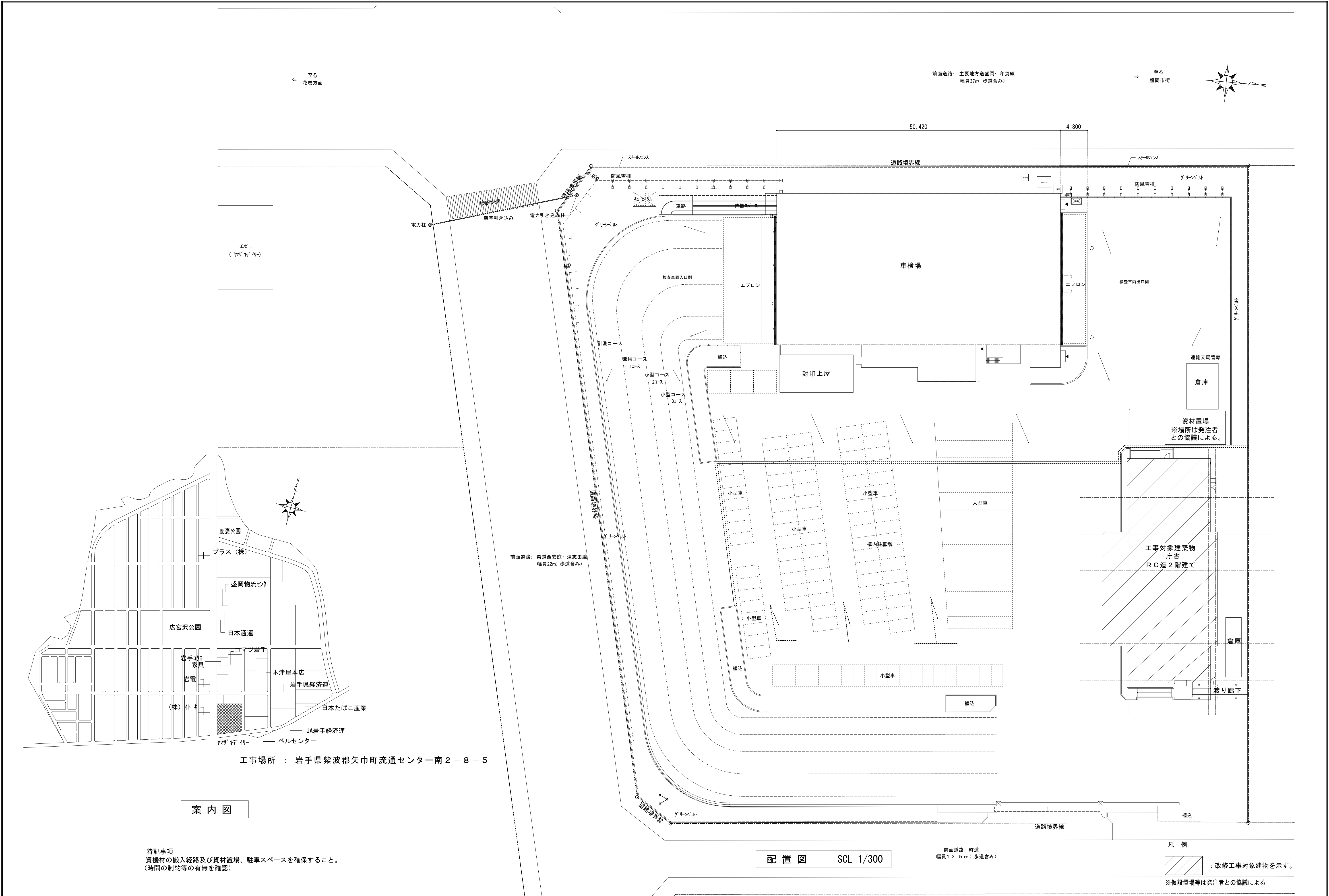
2026年 7月 日

縮尺

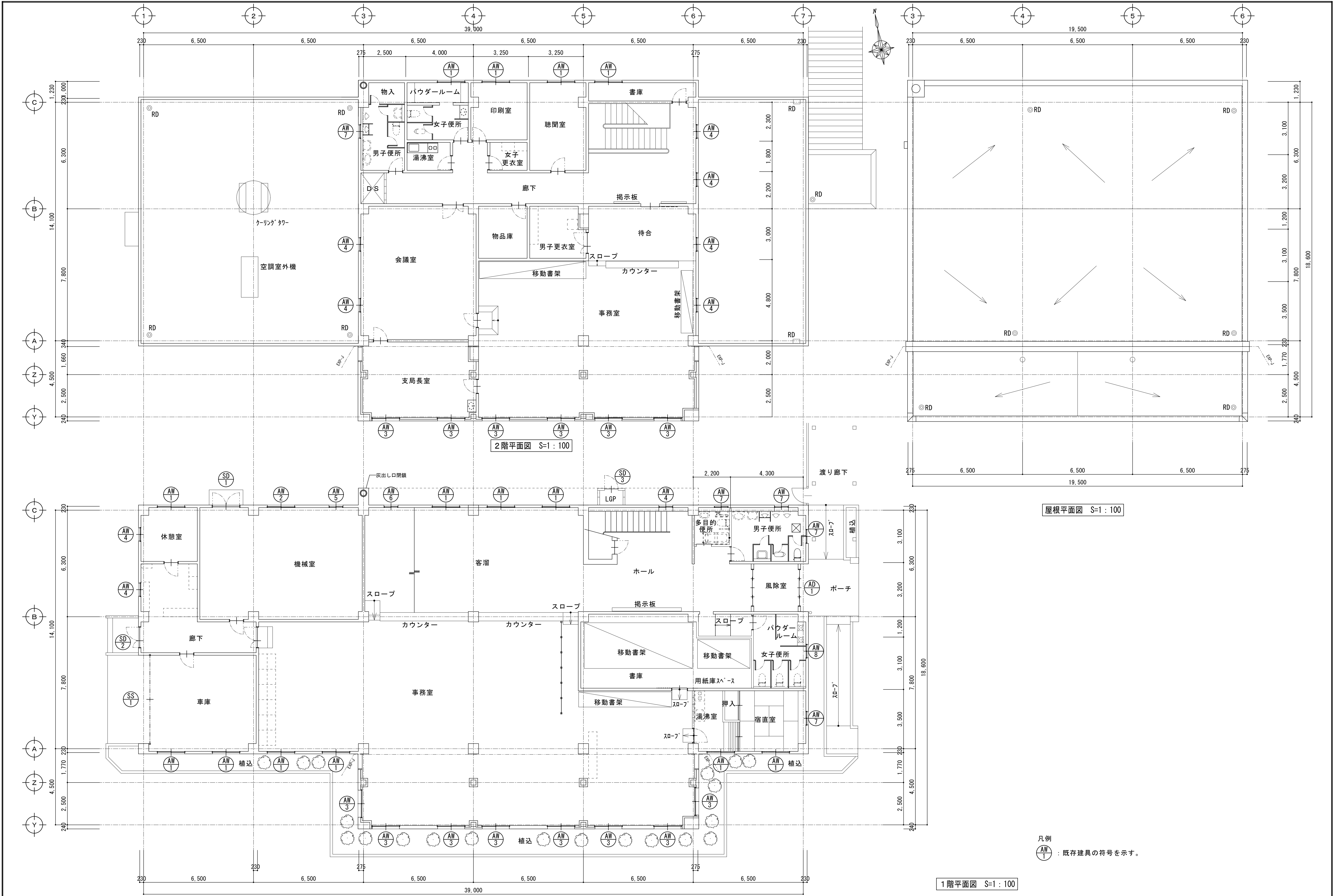
A1版 NON
A3版 NON

図面番号

A-04



特 記			資格/番号	氏 名	印		資格/番号	氏 名	印	検 図	製 図	 一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所 ISHIYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE 山形県事務所登録(1603)第1096号	工 事 名			岩手運輸支局 建物定期調査業務			図面番号
			代表 設計者	一級建築士 石山 徳昭 第200364号		担当 設計者	二級建築士/第10276号 武田 彩華	石 山	武 田	R08.07.24	R08.07.21		図 名	案内図・現況配置図（渡り廊下参考図）			A—05		
													作図年月日	2026年 7月 日	縮尺 A1版 1：300 A3版 1：600				



凡例
⊙AW1: 既存建具の符号を示す。

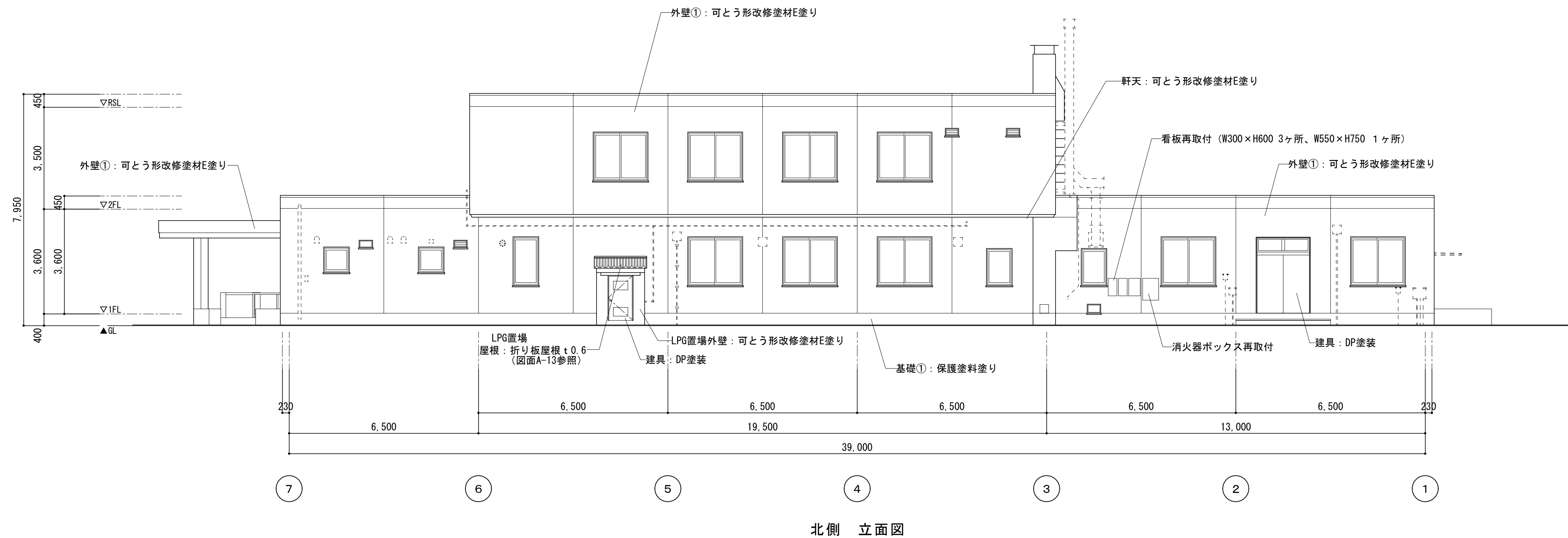
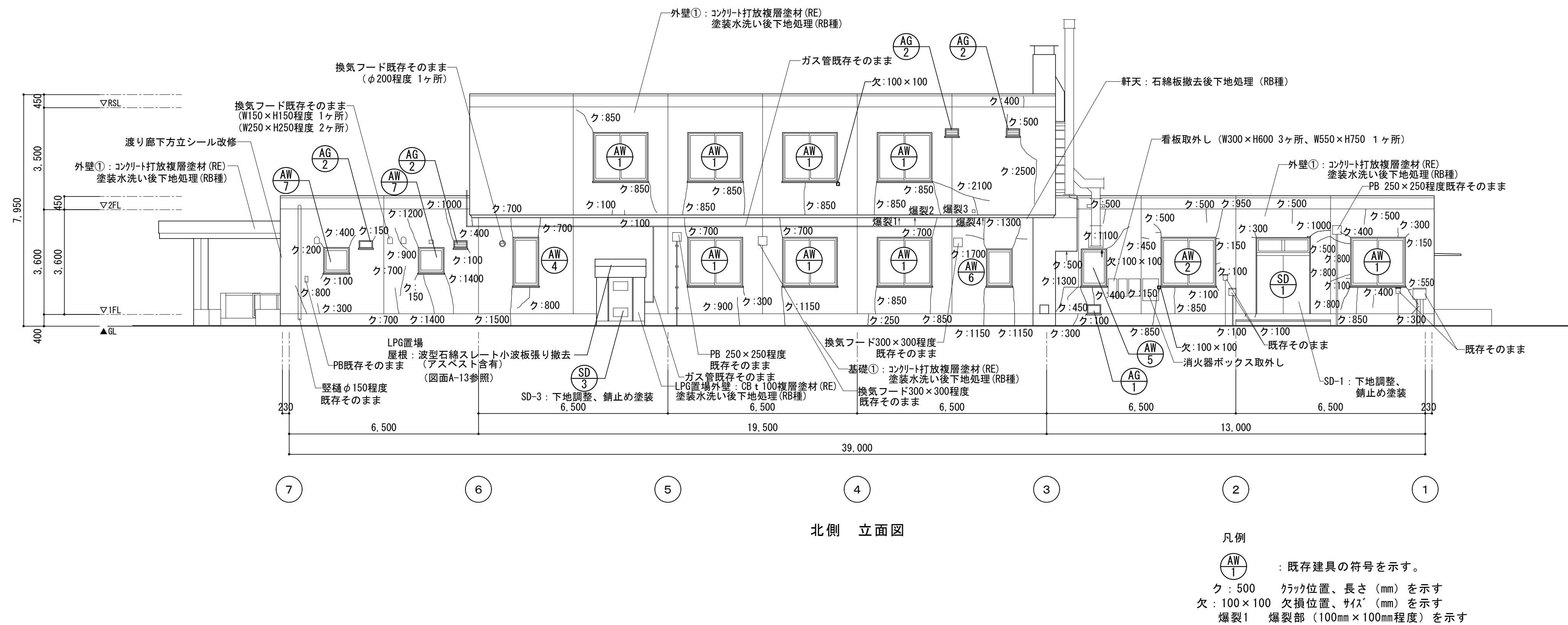
特 記			資格/番号	氏 名	印		資格/番号	氏 名	印	検 図	製 図	 一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所 ISHIYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE 山形県事務所登録(1603)第1096号	工 事 名			岩手運輸支局外壁改修工事			図面番号
				代表設計者	一級建築士	石山 徳昭	担当設計者	二級建築士/第10276号	武田 彩華	石 山	武 田		図 名		1 階平面図・2 階平面図・屋根平面図				
						第200364号				R08.07.24	R08.07.21		作図年月日		2026年 7月 日		縮尺	A1版 1:100 A3版 1:200	

名 称	改 修 前	改 修 後	備 考 等
外 壁 ①	複層塗材 R E	可とう形改修塗材 E	目地改修
LPG外壁 ①	複層塗材 R E	可とう形改修塗材 E	
基 礎 ①	複層塗材 R E	保護塗料塗り	
開 口 部	アルミ製建具 鋼 製 建 具	既存そのまま 既存そのまま	シーリング 改修
笠 木	アルミ笠木	既存そのまま	シーリング、塗装改修

改修概要リスト

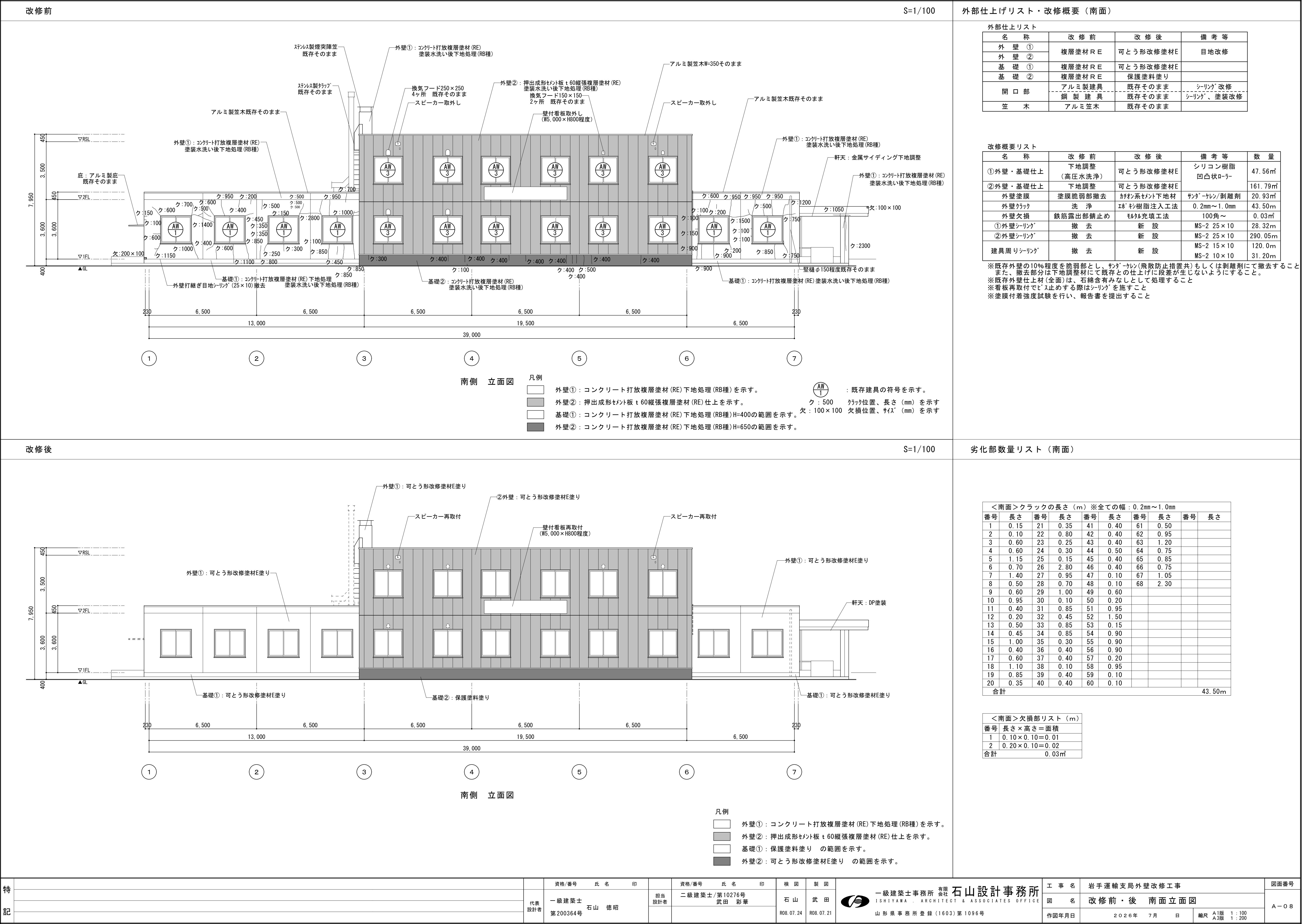
名 称	改 修 前	改 修 後	備 考 等	数 量
外壁・基礎仕上	下地調整 (高圧水洗浄)	可とう形改修塗材E	シリコン樹脂 凹凸付ロー	272.00㎡
外壁塗膜	塗膜脆弱部撤去	ガチヤ系セメント下地材	ウダ・ケレン/剥離剤	27.20㎡
外壁フック	洗 浄	珪砂樹脂注入工法	0.2mm～1.0mm	54.30㎡
外壁欠損	鉄筋露出部錆止め	珪砂充填工法	100角～	0.03㎡
外壁爆裂	鉄筋露出部錆止め	珪砂充填工法	100角程度	0.04㎡
外壁シーリング	撤 去	新 設	MS-2 25×10	99.57m
建具周リシーリング	撤 去	新 設	MS-2 15×10	97.37m
			MS-2 10×10	20.20m

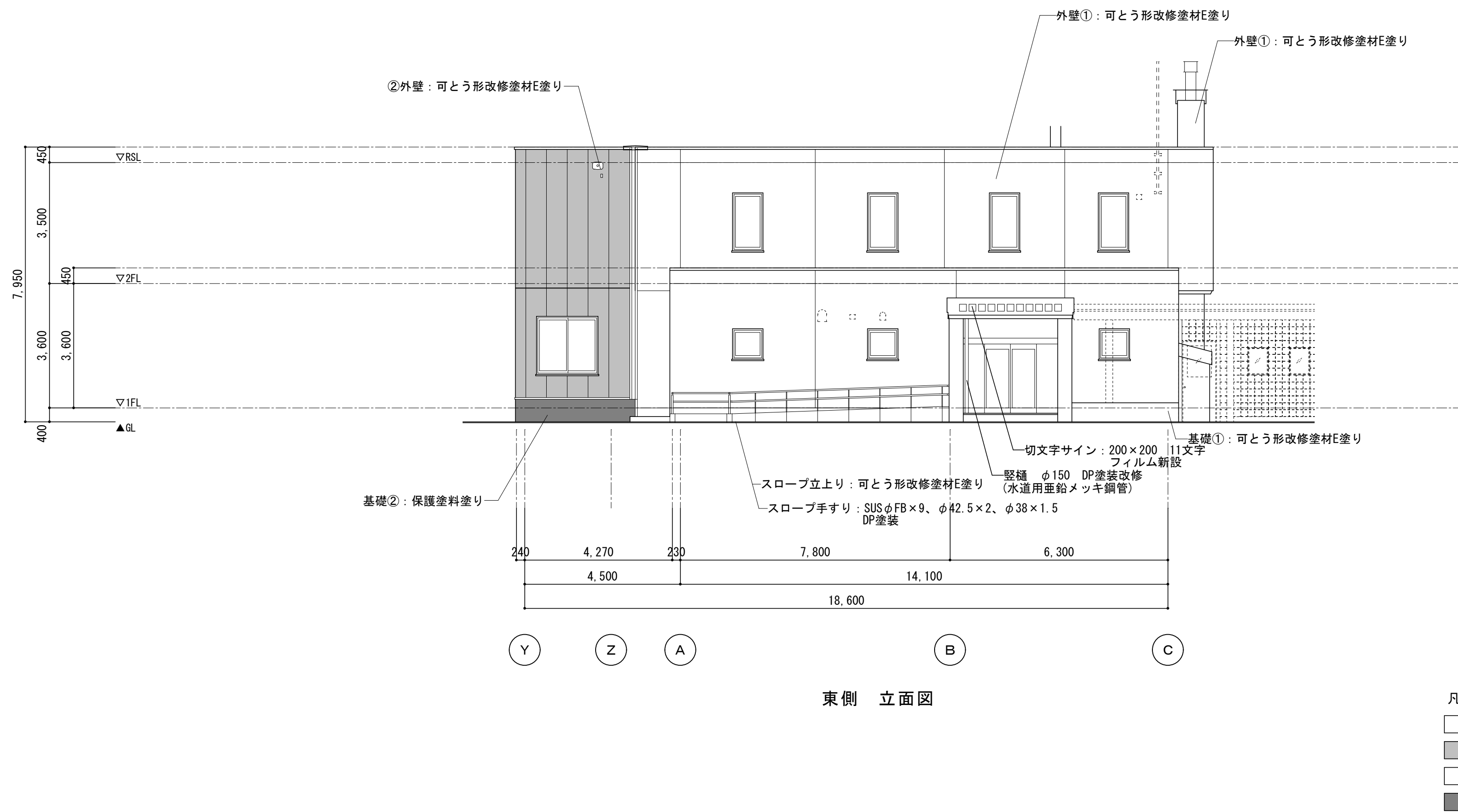
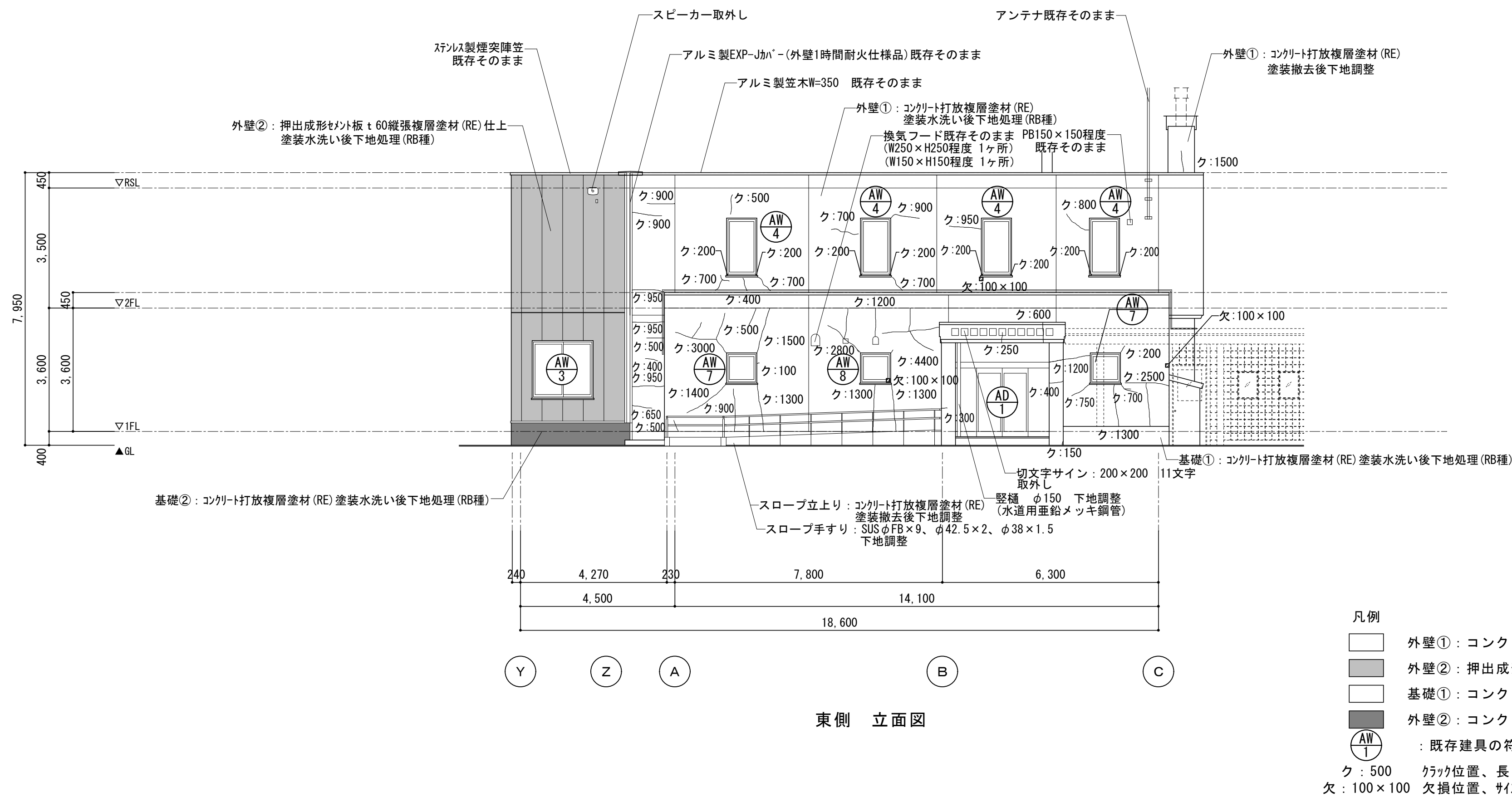
- ※ 既存外壁の10%程度を断熱調整部にとし、サグナール(飛散防止措置含む)もしくは剥離剤にて撤去すること
- ※ また、撤去部分の下地調整部に既存との仕上がり段差が生じないようにすること。
- ※ 既存外壁柱上材(全面)は、石綿含有量みなしとして処理すること
- ※ 取外した器具類は、保管もしくは仮留めとする
- ※ 看板再取得でビム止めする際は「ジッソ」を施すこと
- ※ 塗膜付着強度試験を行い、報告書を提出すること



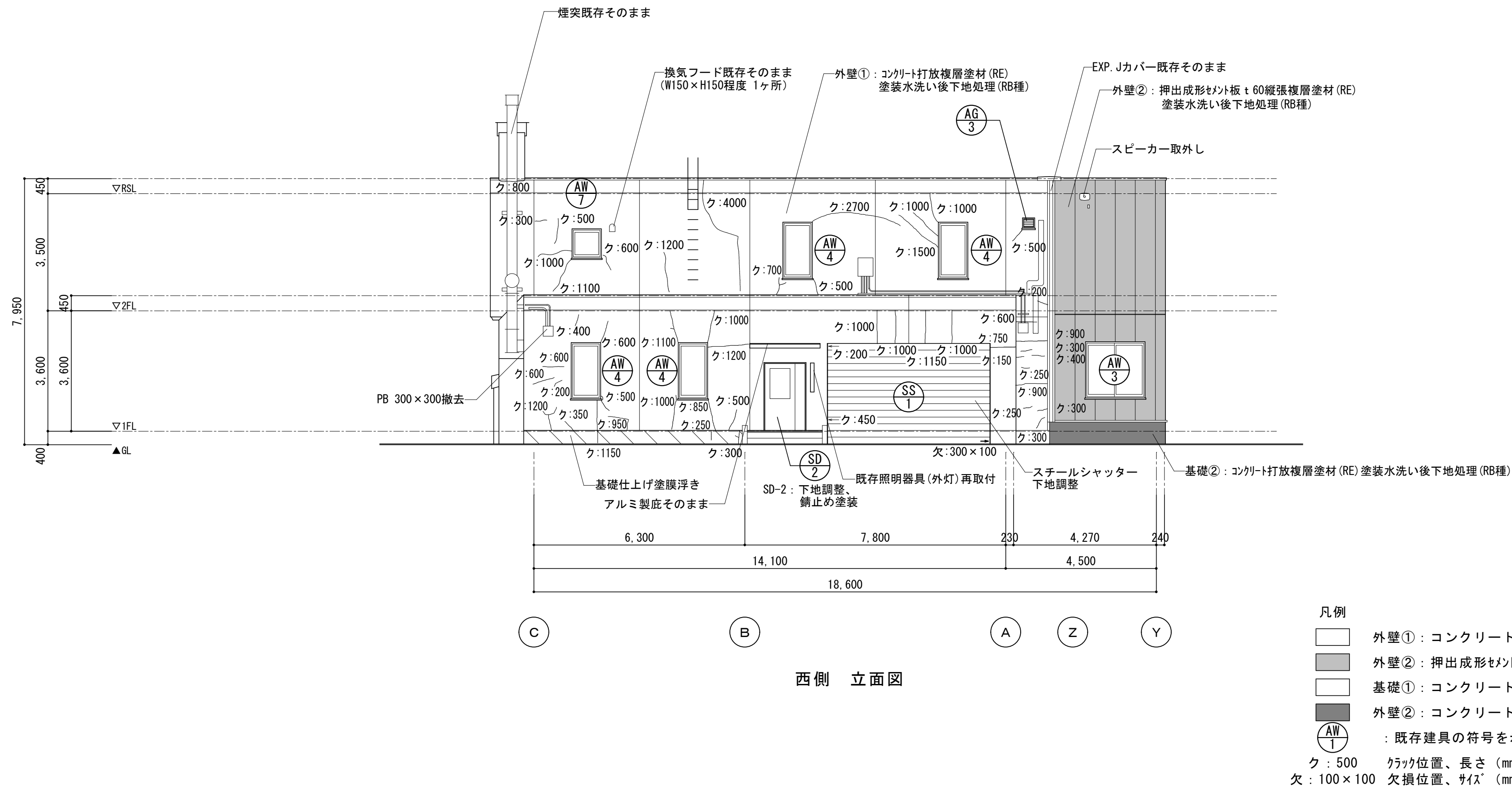
番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ
1	0.80	21	0.10	41	1.15	61	0.85
2	0.30	22	0.10	42	2.50	62	0.10
3	0.10	23	0.85	43	0.50	63	0.10
4	0.20	24	0.70	44	0.40	64	0.10
5	0.40	25	0.85	45	1.30	65	0.30
6	0.15	26	0.90	46	0.45	66	0.50
7	0.90	27	0.30	47	0.40	67	1.00
8	1.20	28	1.15	48	0.30	68	0.50
9	1.00	29	0.70	49	0.10	69	0.40
10	0.40	30	0.85	50	0.50	70	0.80
11	0.10	31	0.85	51	0.50	71	0.80
12	0.70	32	0.25	52	1.10	72	0.10
13	0.70	33	0.85	53	0.45	73	0.80
14	0.15	34	0.85	54	0.50	74	0.85
15	1.40	35	0.70	55	0.50	75	0.40
16	1.40	36	0.85	56	0.95	76	0.55
17	0.70	37	2.10	57	0.15	77	0.30
18	0.70	38	1.70	58	0.10	78	0.50
19	1.15	39	1.30	59	0.15	79	0.30
20	0.80	40	1.15	60	0.85	80	0.15
合計		54.30m					

＜北面＞欠損部リスト (㎡)		
番号	長さ×高さ＝面積	
1	0.10×0.10＝0.01	
2	0.10×0.10＝0.01	
3	0.10×0.10＝0.01	
合計		0.03㎡



[illegible]

番号	長さ×高さ＝面積
1	0.10×0.10＝0.01
2	0.10×0.10＝0.01
3	0.10×0.10＝0.01
合計	0.03m ²



西側 立面図

凡例

外壁①：コンクリート打放複層塗材(RE)下地処理(RB種)を示す。

外壁②：押出成形セメント板 t 60 縦張複層塗材 (RE) 仕上を示す。

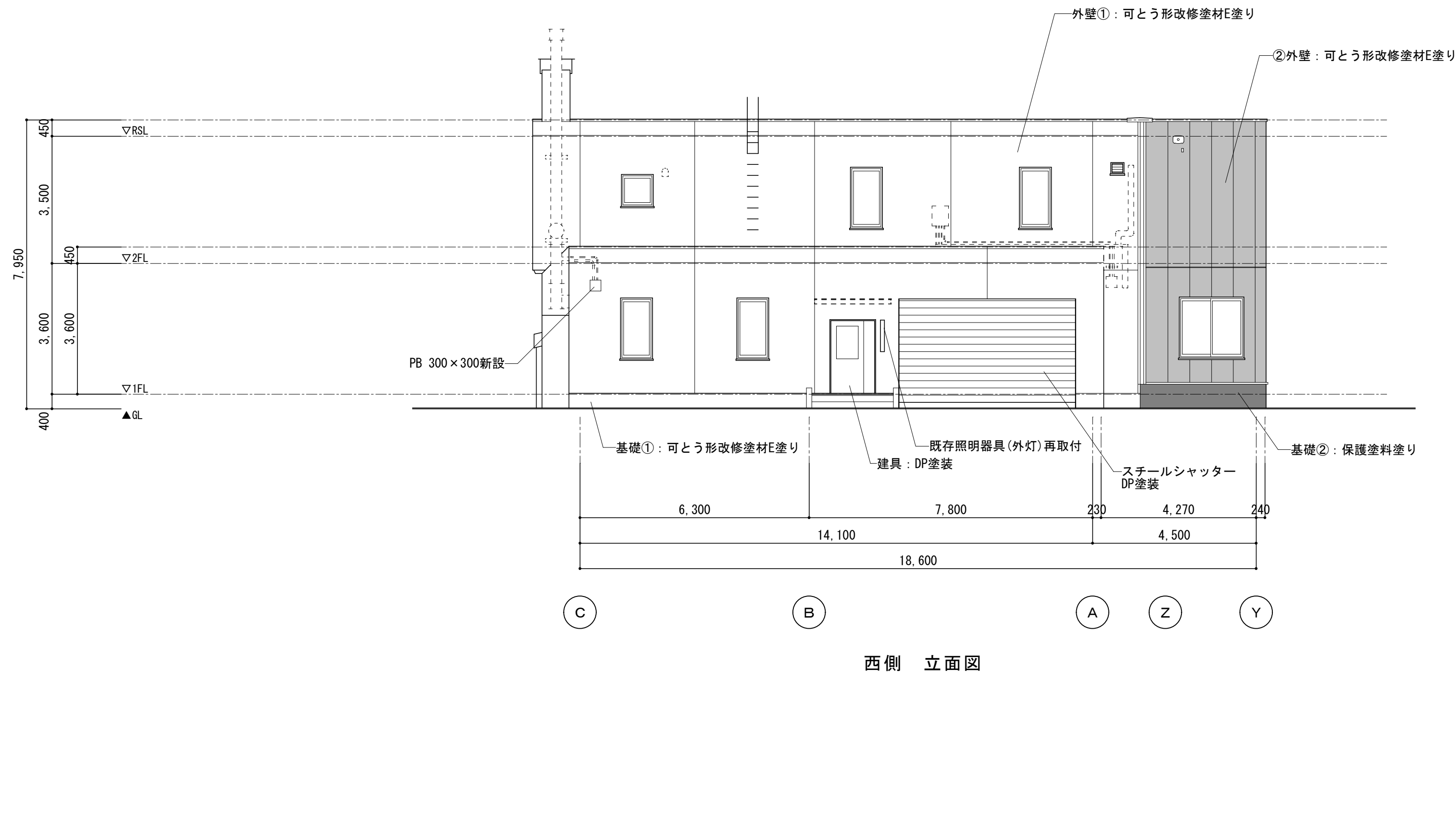
基礎①：コンクリート打放複層塗材(RE)下地処理(RB種)H=400の範囲を示す。

外壁②：コンクリート打放複層塗材(RE)下地処理(RB種)H=650の範囲を示す。

 : 既存建具の符号を示す。

7 : 500 クラック位置、長さ (mm) を示す

100×100 欠損位置、サイズ (mm) を示す



西側 立面図

凡例

☐ 外壁①：コンクリート打放複層塗材(RE)下地処理(RB種)を示す。

外壁②：押出成形セメント板 t 60 縦張複層塗材 (RE) 仕上を示す。

☐ 基礎①：保護塗料塗り の範囲を示す。

■ 外壁②：可とう形改修塗材E塗り の範囲を示す。

外 部 仕 上 リ ス ト			
名 称	改 修 前	改 修 後	備 考 等
外 壁 ①	複層塗材 R E	可とう形改修塗材 E	目地改修
外 壁 ②			
基 礎 ①	複層塗材 R E	可とう形改修塗材 E	保護塗料塗り
基 礎 ②	複層塗材 R E		
開 口 部	アルミ製建具	既存そのまま	シーリング改修
	鋼 製 建 具	既存そのまま	シーリング、塗装改修
笠 木	アルミ笠木	既存そのまま	

外壁①：コンクリート打放複層塗材(RE)下地処理(RB種)

外壁②：押出成形セメント板 t 60縦張複層塗材 (RE) 仕上

名 称	改 修 前	改 修 後	備 考 等	数 量
①外壁・基礎仕上	下地調整 (高圧水洗浄)	可とう形改修塗材E	シリコン樹脂 凹凸状ローラー	141.38㎡
②外壁・基礎仕上	下地調整	可とう形改修塗材E		27.90㎡
外壁塗装	塗膜脆弱部撤去	ガチノ系セメント下地材	サンダー/ケレン/剥離剤	16.92㎡
外壁クレーク	洗 浄	珪 藻 土 樹脂注入工法	0.2mm～1.0mm	40.25m
外壁欠損	鉄筋露出部錆止め	モルタル充填工法	100角～	0.03㎡
①外壁シーリング	撤 去	新 設	MS-2 25×10	59.39m
②外壁シーリング	撤 去	新 設	MS-2 25×10	62.47m
建具周リシーリング	撤 去	新 設	MS-2 15×10	46.15m
			MS-2 10×10	5.70m

※既存外壁の10%程度を脆弱部とし、サダーケル(飛散防止措置共)もしくは剥離剤にて撤去すること

また、撤去部分は下地調整材にて既存との仕上げに段差が生じないようにすること。

※既存外壁仕上材(全面)は、石綿含有みなしとして処理すること

※看板再取付でピス止めする際はシーリングを施すこと

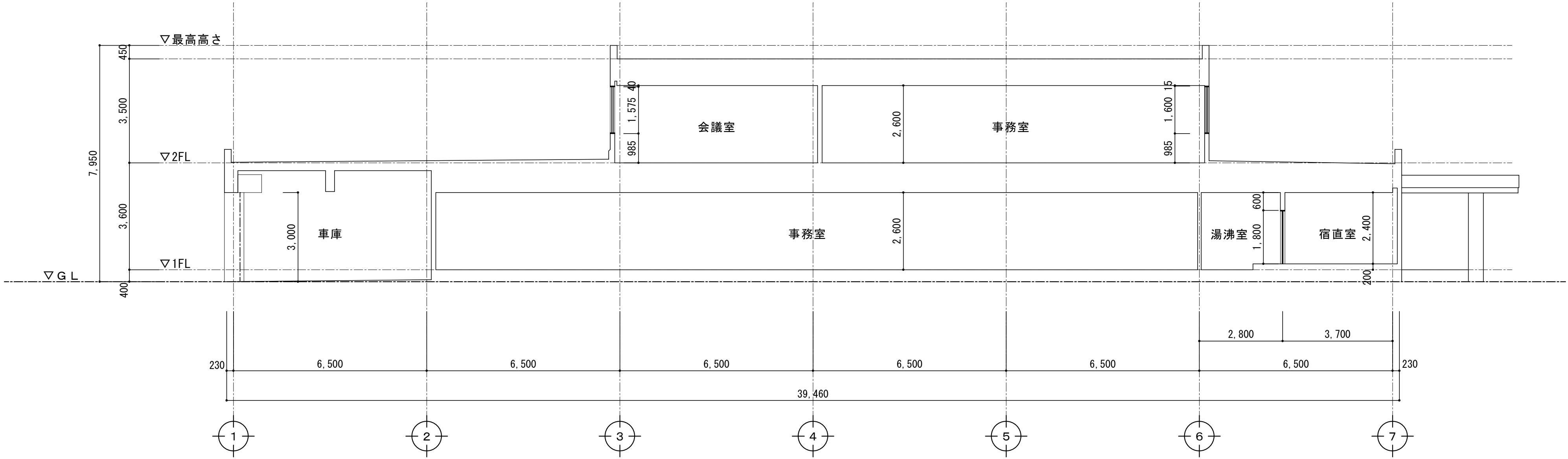
※塗膜付着強度試験を行い、報告書を提出すること

番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ	番号	長さ
1	0.60	21	1.00	41	0.80				
2	0.60	22	1.00	42	0.30				
3	0.20	23	1.15	43	0.50				
4	1.20	24	1.00	44	1.00				
5	0.35	25	0.75	45	1.10				
6	1.15	26	0.20	46	0.60				
7	0.50	27	0.60	47	1.20				
8	0.95	28	0.90	48	4.00				
9	0.40	29	0.30	49	0.70				
10	0.60	30	0.15	50	0.50				
11	1.10	31	0.40	51	0.50				
12	1.00	32	0.25						
13	1.20	33	0.90						
14	1.00	34	0.25						
15	0.85	35	0.30						
16	0.50	36	0.30						
17	0.25	37	2.70						
18	0.30	38	1.50						
19	0.20	39	1.00						
20	0.45	40	1.00						
合計									

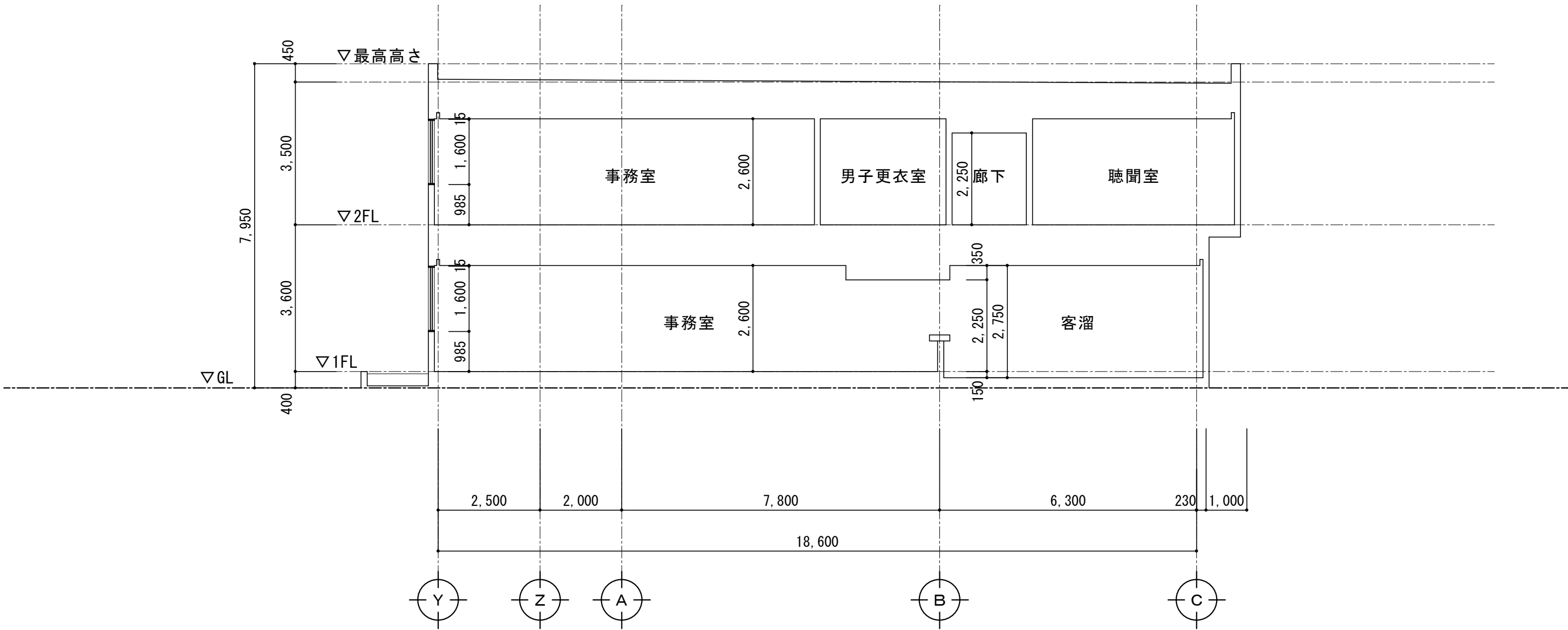
40.25m

＜西面＞欠損部リスト (m)	
番号	長さ×高さ＝面積
1	0.30×0.10＝0.03
合計	0.03㎡

特 記		資格/番号	氏 名	印		資格/番号	氏 名	印	検 図	製 図	 一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所 ISHIYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE 山形県事務所登録(1603)第1096号	工 事 名	岩手運輸支局外壁改修工事			図面番号 A-10
		代表 設計者	一級建築士 第200364号	石山 徳昭	担当 設計者	二級建築士/第10276号 武田 彩華	石 山	武 田	図 名	改修前・後 西面立面図						
							R08.07.24	R08.07.21	作図年月日	2026年 7月 日		縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200				

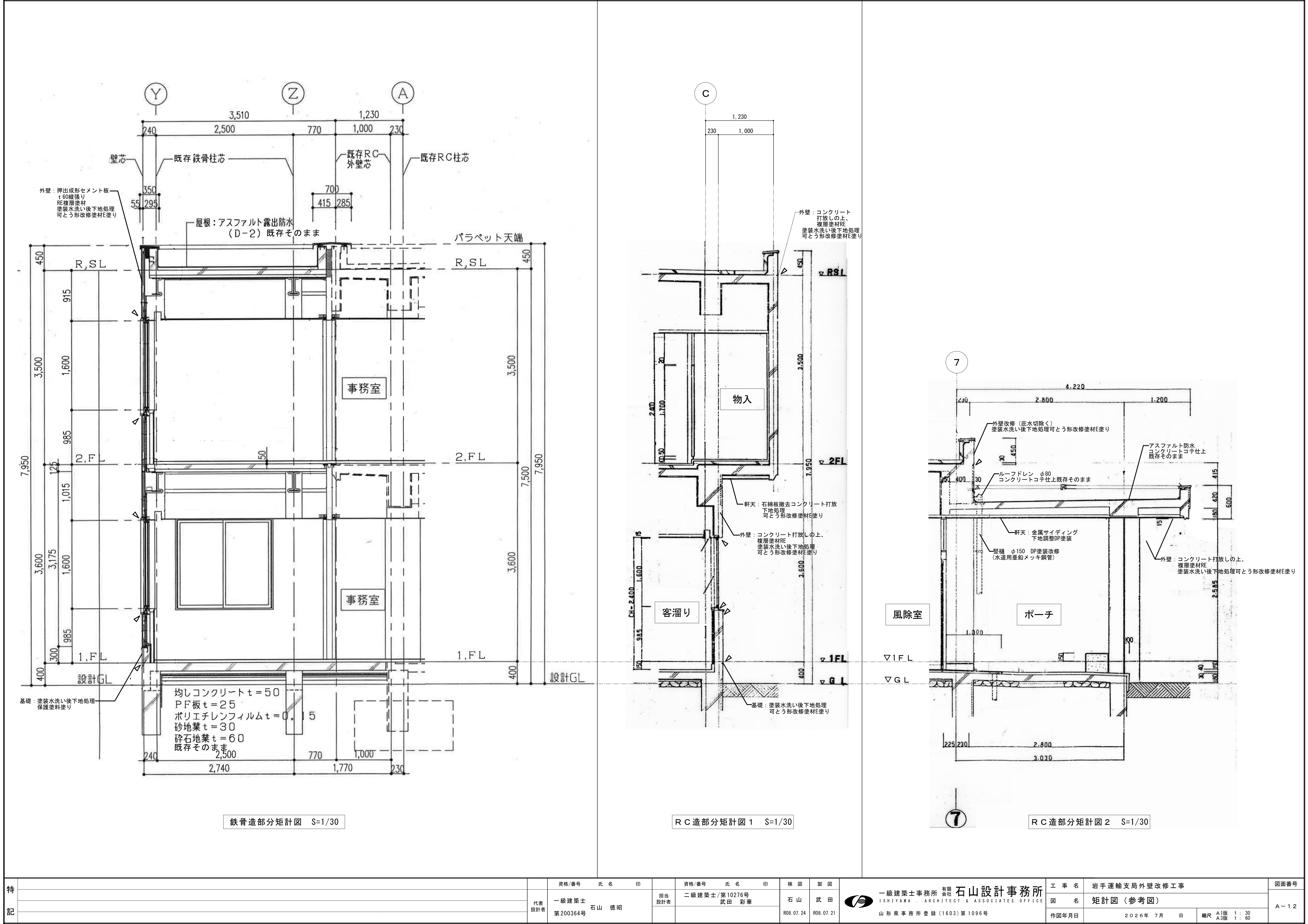


断面図 1 S=1 : 100

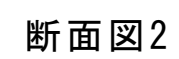
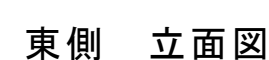
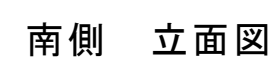
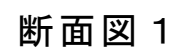
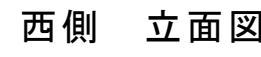
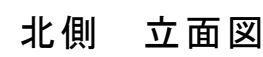
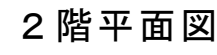
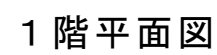


断面図 2 S=1 : 100

特 記			資格/番号 氏 名 印	資格/番号 氏 名 印	検 図	製 図	一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所 ISHIYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE 山形県事務所登録(1603)第1096号	工 事 名	岩手運輸支局外壁改修工事		図面番号
		代表 設計者	一級建築士 第200364号 石山 徳昭	担当 設計者	二級建築士/第10276号 武田 彩華	石 山 武 田 R08.07.24 R08.07.21		図 名	断面図 (参考図)		A-11
								作図年月日	2026年 7月 日	縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200	



特 記				資格/番号	氏 名	印		資格/番号	氏 名	印	検 図	製 図	一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所 ISHIYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE 山形県事務所登録(1603)第1096号	工 事 名	岩手運輸支局外壁改修工事			図面番号	
				代表 設計者	一級建築士 石山 徳昭 第200364号		担当 設計者	二級建築士/第10276号 武田 彩華	石 山	武 田	R08.07.24	R08.07.21		図 名	矩計図（参考図）			A-12	
																	作図年月日		2026年 7月 日



凡例

   : コーンバリアケードを示す。

 : 誘導員を示す。

特 記			資格/番号	氏 名	印		資格/番号	氏 名	印	検 図	製 図	 一級建築士事務所 有限会社 石山設計事務所 ISHIYAMA . ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE 山 形 県 事 務 所 登 録 (1603) 第 1096 号	工 事 名	岩手運輸支局外壁改修工事			図面番号 A - 1 4
		代表 設計者	一級建築士 第200364号	石 山 徳 昭	担当 設計者	二級建築士/第10276号 武田 彩華	石 山	武 田	R08.07.24	R08.07.21	図 名		仮設計図面(参考図)				
					作図年月日	2026年 5月 25日					縮尺		A1版 1 : 150 A3版 1 : 300				